

はじめに



日本気象予報士会は、1996年に全国の気象予報士^{※1}が集まり「気象予報士会」として設立されました。その後、2004年には更なる飛躍を祈念して「日本気象予報士会」として生まれ変わりました。

気象予報士は全国に5,213名^{※2}おり、そのうち本会の会員は2,215名。あらゆる年齢、業種の方々から構成されています。

日本気象予報士会は、対内的には会員相互の親睦および技術力向上、情報交換などを行うことを目的とし、対外的には他の気象関係機関・団体などとの連携のもとに気象事業の振興に寄与し、社会に貢献することを目的としております。

日本気象予報士会 会長

石井 和子

沿革

- 1996年 気象予報士会設立総会
初代会長に 木村龍治氏 就任
- 2002年 第2代会長に 石井和子氏 就任
- 2003年 気象庁「気象科学館」にて案内員の協力を開始
- 2004年 第9回定期総会にて
「日本気象予報士会」へと名称変更が承認される
- 同年 有限責任中間法人「気象予報士互助会」設立
- 2005年 第10回定期総会にて本会の英語名称が
「Certified and Accredited Meteorologists of Japan(CAMJ)」に決まる

※1 気象予報士とは

1993年5月に気象業務法が改正され、予報業務の許可事業者（民間気象会社）は気象予報士に現象の予想を行わせなければならないことになりました。それを受けて、国家資格である気象予報士制度が誕生しました。気象予報士は、気象庁から提供される高度で様々な気象データを統合的に判断し、自ら責任を持って、的確に気象予報を行うことができる気象のスペシャリストです。

※2 2005年3月現在